

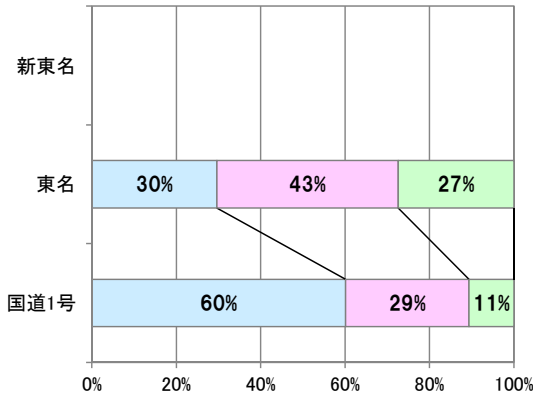
ニホンつながる  
新東名[ストック効果②] 新東名の開通により長距離輸送を支援

- 新東名開通後、移動距離の長い車両は、新東名利用に転換。
- 特に、物流を担う貨物車は、走行性の良い新東名を利用。

移動距離別の利用割合

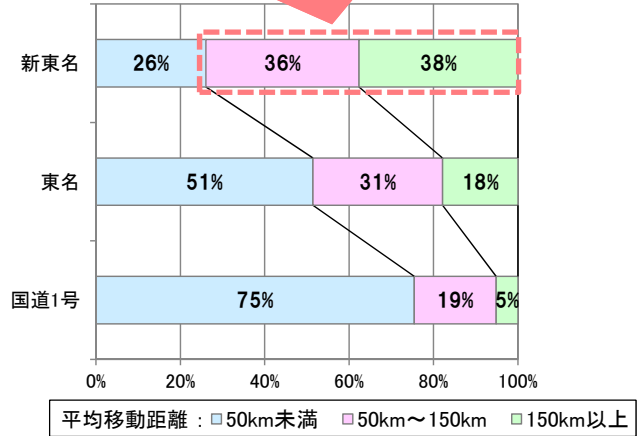
<開通前>

平均移動距離の割合  
(全車)

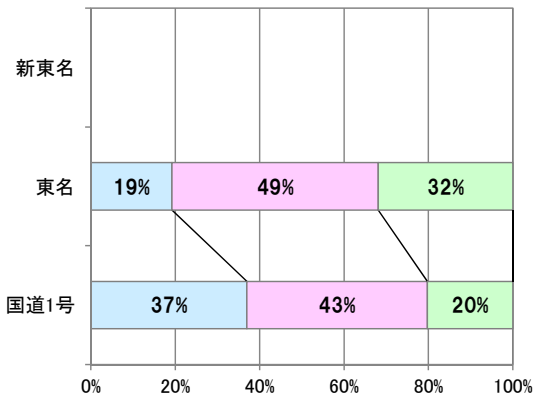


<開通後>

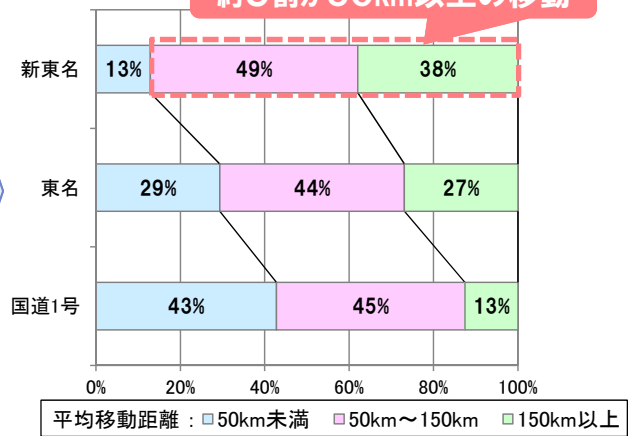
約7割が50km以上の移動



平均移動距離の割合  
(貨物車)



約9割が50km以上の移動



出典 ETC2.0プローブ情報 対象区間：国道1号：本宿町沢渡交差点～岡崎IC西交差点、東名：三ヶ日JCT～豊田JCT、新東名：浜松いなさJCT～豊田東JCT  
 平均移動距離：対象区間を走行した車両の移動距離を平均（同一車両において、前後の計測時刻差が60分以上ある場合は別の移動距離として算出）  
 開通前：平成27年3月1日～平成27年3月31日（平日）、開通後：平成28年3月1日～平成28年3月31日（平日）  
 距離の区分：開通区間延長（55km）と、開通区間が繋ぐ都市、名古屋市～静岡市間の距離150kmから距離分けを設定

新東名高速道路を利用する輸送会社等の声

- 関東まで行きやすくなり、道が走りやすいのでドライバーの体への負担が軽いため利用している。（愛知県内 ドライバー）
- 輸送時間が20分程度短縮できることから、岐阜県（大垣付近）～静岡県（沼津付近）までの輸送で新東名を利用している。（岐阜県内 輸送会社）
- ドライバーの労務環境が改善傾向し、運行時間の管理がしやすくなることから利用している。（愛知県内 輸送会社）

